

## 令和7年度 第3回大和町地域公共交通会議 議事録

日 時：令和8年1月16日（金）午後1時30分～午後2時06分

場 所：大和町役場 3階 302会議室

出席者：千葉 喜一会長、工藤 浩太郎委員、中村 力委員、徳永 幸之委員、曾根 崇委員  
小川 実委員、早坂 秀男委員、内海 賢一委員、藤江 昭夫委員、若生 昇委員  
堀籠 美江子委員、二瓶 智樹委員、関澤 京子委員、西川 和宏委員  
高橋 義喜委員、江本 篤夫副会長、出席委員16人

欠席者：長尾 勝吾委員、結城 義秀委員、佐藤 雅之委員

事務局：まちづくり政策課 遠藤課長、菅野、市川

### 1. 開 会 進行 遠藤課長 13:30～

過半数出席のため、会議が成立する旨報告。

### 2. あいさつ（副町長）

それでは皆様、改めまして明けましておめでとうございます。令和7年度第3回大和町地域公共交通会議を開催いたしましたところ、委員の皆様には新年早々、何かとご多忙の中ご出席を賜り誠にありがとうございます。また、日頃よりそれぞれのお立場から、地域公共交通の推進に深いご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

さて、前回11月19日に開催いたしました第2回大和町地域公共交通会議においてご承認いただきました令和7年度地域内フィーダー系統確保維持費補助金の交付申請につきましては、期日どおり東北運輸局宮城運輸支局へ提出したところでございます。本日は、その補助金の一次評価につきましてご審議をお願いするものでございます。また、報告事項といたしまして、地域公共交通計画に掲載しております施策の実施・検討状況についてご報告させていただく予定としております。

年明け以降、寒暖差のある気候が続いておりますが、寒さはこれからが本番かと存じます。委員の皆様におかれましては、くれぐれも健康にご留意いただき、今後とも本町の地域公共交通事業にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

以上をもちまして、開催の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事 13 : 34～13 : 43

設置要綱第7条の規定により、千葉副町長（会長）が議長となり、議事を進行。

議案第1号 令和7年度地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の一次評価について  
（資料P1～4 参照）13 : 34～13 : 43 事務局（菅野）より説明

徳永委員：高校生の利用状況について伺います。現在、高校生の利用が減少しているとの説明がありましたが、高校生自体の人数が半減しているのか、それとも人数は大きく変わらず、利用状況が変化しているのか、そのあたりの状況を把握されていれば教えてください。

事務局：高校生の利用につきましては、もみじヶ丘や杜の丘方面からの利用が多く、町内のみならず富谷市日吉台方面から利用されている方もいらっしゃいます。  
一方で、沿線沿いの高校生の実数自体が減少していることが、利用減少の大きな要因であると考えております。  
正確な人数については把握できておりませんが、利用実績ベースでは、体感として約6割程度に減少しているものと感じております。  
また、朝の通学時間帯の利用は一定程度あるものの、帰宅時の利用が少なくなっており、全体として平均的な利用ニーズは低下している状況にあります。

二瓶委員：補足になりますが、黒川高校の状況について説明いたします。

黒川高校では、この4年間で生徒数が約460人から現在は約370人程度まで減少しており、約90人ほど減っている状況です。  
今後も入試状況等を踏まえると、生徒数は減少していく見込みと考えられます。

議案第1号 【原案どおり承認】

#### 4. 報 告 13:44~14:05

- ・地域公共交通計画掲載施策の実施、検討状況について  
(資料P5~10 参照) 13:44~14:05 (菅野) より説明

#### 質疑

高橋委員：県の立場からの意見となりますが、JCHO 仙台病院への延伸運行やバスターミナルを中心とした取組については、一定の成果が出ていると認識しております。

広域路線につきましても、県として分析等を進めておりますので、今後も連携しながら事業を進めていければと考えております。

若生委員：私自身、これまで交通事業に関わってきた立場から申し上げますと、利用者一人ひとりへの対応というよりも、利用者全体を増やしていこうという考え方は、とても良い方向性だと思います。個別の声に答えるだけでなく、より多くの方に使ってもらう仕組みづくりにつながる提案で、非常に評価できる内容だと感じました。

徳永委員：地域公共交通計画の評価についてですが、KPI（目標指標）について、どの取組がどの程度効果を上げたのかが分かりづらいと感じています。

回数や人数といった数値だけでなく、取組内容の中身が見えるような整理が必要ではないでしょうか。

また、お試し乗車券や定期券の取扱いについても、今後の検討方針が分かるようにしていただければと思います。

事務局：KPI（目標指標）につきましては、どうしても回数や人数といった目に見える指標に偏りがちであります。ご指摘のとおり、取組内容の中身についても把握・整理していく必要があると考えております。

例えば、デマンドタクシーにつきましては、延べ利用人数だけでなく、実利用人数や1人当たりの利用回数なども分析しております。

数値上は目標を達成している場合でも、実人数が大きく増えていないケースもあり、内部では課題として認識しております。

今後は、目標値の設定自体が適切であるかも含め、見直しを検討してまいりたいと考えております。また、個別施策につきましては、「実施済」「継続検討」「一旦見送り」など、進捗状況が分かるよう整理し、進行管理を意識して対応してまいります。

#### 5. 閉 会 14:06